

# 佐倉福音キリスト教会

## サクサク通信

2020年5月号(第65号)



牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



### 今月の聖書のことば

あなたの重荷を主にゆだねよ。主があなたを支えてくださる。主は決して正しい者が揺るがされるようにはなさない。【詩篇 55 篇 22 節】

私はドキュメンタリー番組が好きなのですが、特に好きなのは「情熱大陸」です。この番組では、4月12日にウイルス学者の河岡義裕さん、19日に感染管理専門家の坂本史衣さんが取り上げられました。お察しの通り、新型コロナウイルスの問題のために働いておられる方々を特集したものでした。番組の中に感動的な要素はないのですが、ご自分がなすべき務めを淡々と行っている姿に感動を覚えました。特に、19日に放送された坂本史衣さんの回では、職場のデスクの映像が出たのですが、その壁に聖書のことばが貼ってありました。翻訳は違うのですが、それが今月のことばとして取り上げている詩篇 55 篇 22 節でした。このみことばは 2019 年 7 月のサクサク通信でも取り上げたことがあるのですが、改

めて今回取り上げたいと思います。

現在日本だけでなく、全世界が新型コロナウイルスの問題によって揺さぶられています。見えないウイルスにどのように対処すべきか苦闘しています。八割は軽症ですが、二割は重症になり、酷いケースでは死に至ります。芸能界の現役で活躍していた志村けんさんや岡江久美子さんの死は、大きな衝撃をもたらしました。そのような中であって、聖書は語りかけます。「あなたの重荷を主にゆだねよ」と。この重荷と訳されている言葉は、直訳は「(あなた) に与えられるもの」です。それをここでは「重荷」と訳していますが、私たちには様々なものが与えられ、それが重荷になります。前述の坂本さんも院内感染を防ぐべく様々な働きをしておられましたが、坂本さんにとって

もその働きは少なからず重荷であろうと思います。この坂本さんがクリスチャンであるか否かは分かりませんが、私たちには重荷を委ねることができるお方がいることを知っていることは、恵みであり、慰めではないでしょうか。自分一人で一生懸命になって背負い、押し潰されてしまうのではなく、主（「神」のこと）に委ねる。聖書は「委ねよ」と命じています。この直訳は「投げる」であり、つまり、主に向かって投げなさい、と聖書は言っています。この詩篇を書いたダビデという人は、親しい者に裏切られ、孤独を味わい、嘆き、失望しました。その中で重荷を主に委ねて、平安と確信を保ちました。この主とは、天地万物を造り、今も支配し、全宇宙の王として君臨しておられる神のことです。その御方に向けて、重荷を投げるができる。聖書は決して「一人で背負い続けなさい」「努力しなさい」「できないのはあなたがいけない」とは言いません。むしろ自分の力に頼るのではなく、主に委ねることを教えます。そうするなら

～集会案内～

- 日曜日：聖日礼拝 11:00～12:30      ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00  
教会学校 10:00～10:40（子どもから大人まで）      19:30～21:00  
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（子育てなどを行っている方のための集い。）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

ば、主が私たちを支えてくださいます。別の言い方をすれば、私たちのことを主が心配し続けて下さるのです。また、「主は決して正しい者が揺るがされるようにはなさない」ともありますが、「正しい者」とは主に従って生きている人のことで、そのような者たちは全能の主に頼っていますから、揺るがされることはありません。私自身も教会のこれからを考えて不安になることがあります。いつ皆で集まったの礼拝が再開できるのか、先が見えないように思えることもあります。このみことばに励まされつつ、主に重荷を委ねて歩んでいます。皆様にも重荷を委ねて良い方がおられることを、私たちを支えて下さる方がおられることを知って頂きたいと願っています。

◆コラム

佐倉福音キリスト教会では、5月3日現在、会堂に集まったの礼拝を休止しています。まさか自分が生きている間に「教会に来ないでください」と言う日が来るとは思いませんでした。いつになったら会堂に集まって礼拝ができるのか現段階では見えませんが、神様は全てのことを働かせて益としてくださるお方です。今は youtube を用いて礼拝をささげていますが、それだからこそ礼拝に参加できる方がいることも事実ですから、忍耐しつつ待ち望んでいます。